

月刊「神戸っ子」昭和39年8月10日印刷通巻41号 昭和39年8月10日発行 毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

# 神戸っ子

8  
月号



RKO 130

monthly magazine kobekko august 1964 no. 41



*Mikimoto Pearls*

世界で自慢のできる

日本の宝石は

〈ミキモトパール〉です

日本人の美しさをこれほど

ひき立てる宝石は

ないでしょう



ミキモトパール  
御木本真珠店

神戸店

三宮・神戸国際会館 Tel. 22-0062

大阪店

堂島・新大ビル Tel. 361-0220

本店 東京都銀座4丁目

これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です



PEARLS by TASAKI

星降る夜に  
タサキパール

田崎真珠店

- 三宮店：新聞会館秀品店内
- ニューポート店：ニューポートホテル内
- 東京パールファーム：東京・赤坂溜池2
- 銀座店：東京・銀座並木通
- ヒルトン店：東京・ヒルトンホテル内
- 羽田店：羽田・東急ホテル内
- 札幌店：札幌・ホテル三愛内

エミリー・ニウフ

(ドイツ航空大阪支社勤務)

ブールの水がはじけると、エミリーさんの両頬にえくぼが出来た。カナディアン・アカデミーを卒業したエミリーさんは、ドイツ航空におつとめの生糸の神戸っ子。音楽が好きな彼女は、ラジオ大阪“虹のハーモニー”的ディスクジョッキーも担当している。「おつとめから神戸へ帰って来るとほっとするわ」とあざやかな神戸言葉で答え、水しぶきをあげてブールへ飛びこんだ。

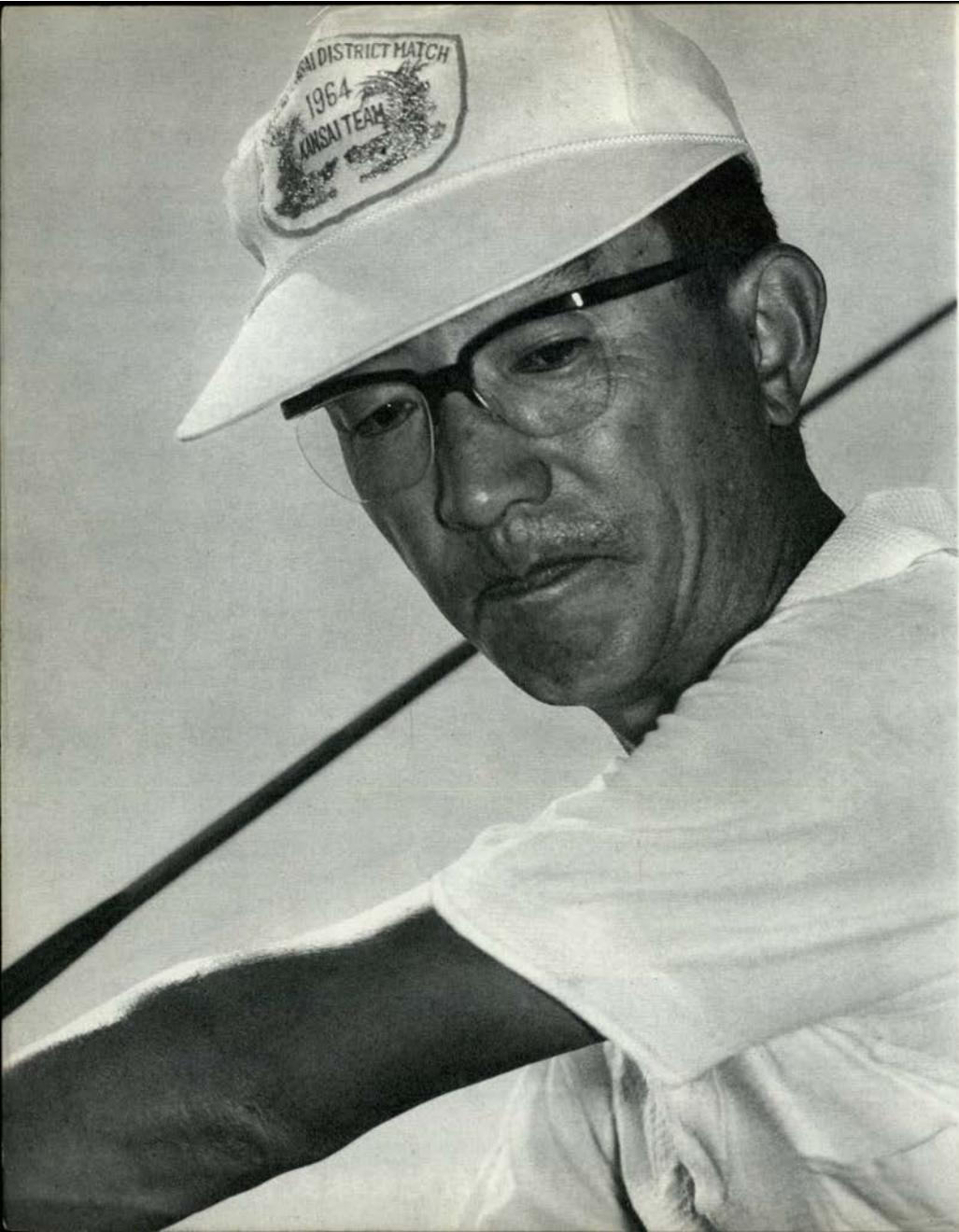




*Hino*  
高性能の日野

日野 **コンテッサ**  
神戸日野モーター TEL 345771 ~ 5

大型バス・トラックのご用命は  
兵庫日野ヂーゼルへ  
TEL. 347651



ら  
れ  
戸  
っ  
子

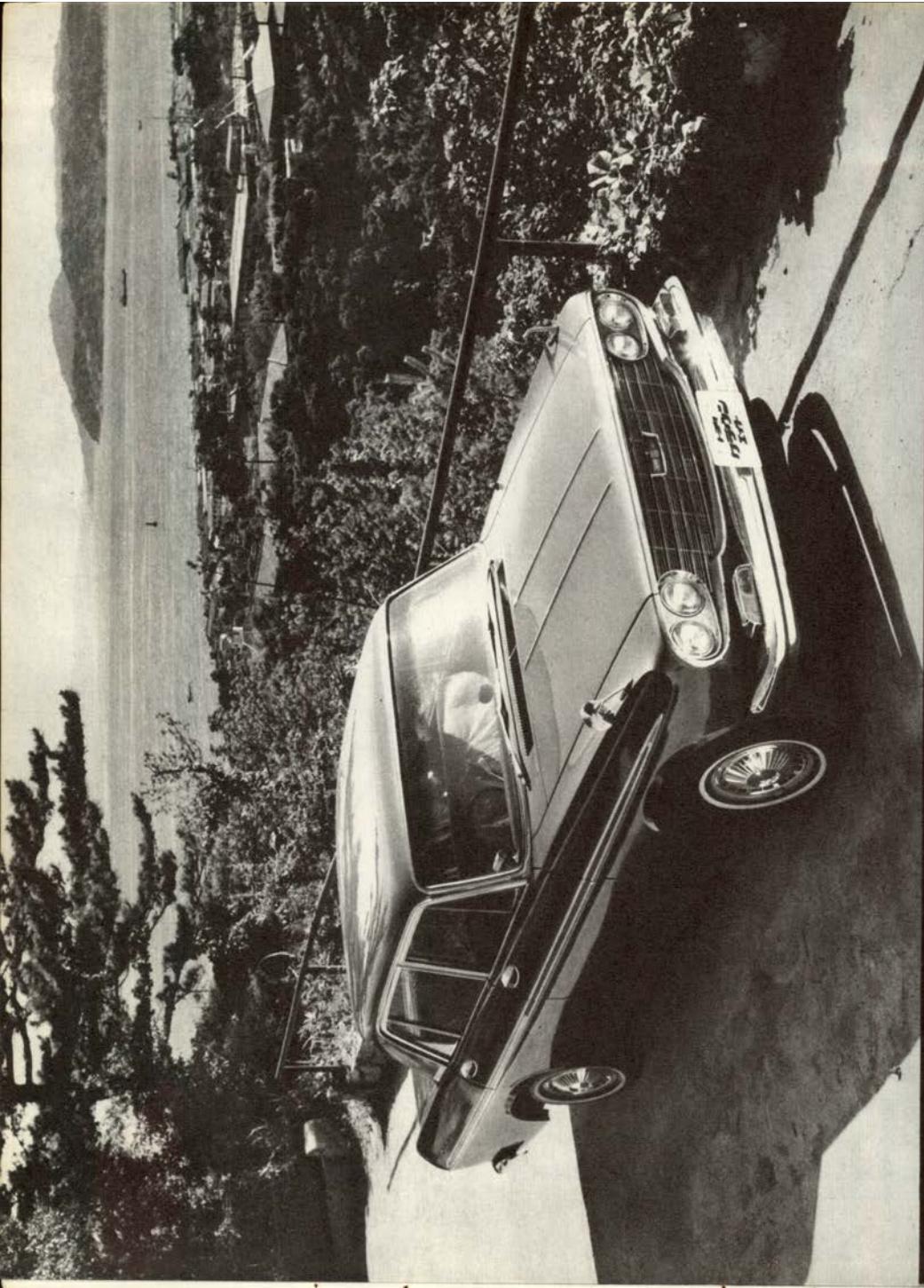
12

岡 橋 泰 一 郎

広野ゴルフクラブ・キャブテン  
岡橋株式会社社長

幼稚園から高校までは甲南学園で、大学は京大法科。  
昭和2年、小学校5年生のときに、初めてクラブをにぎったとい  
う神戸っ子ゴルファー。「ゴルフの醍醐味は、いいスコアーがで  
た時だね、一番いいスコアーがでたのは宝塚（パー70）で、アウ  
ト32、イン33と65がでた時だ。やはり印象に残っているよ。ゴルフ  
で一番大切なのは、健康の調整だと思っています」といわれる。  
六甲・小野ゴルフクラブ（グリーン委員長）

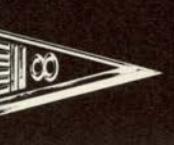
撮影 / 西村雅司



トヨタ自動車株式会社



新発売



兵庫トヨタ自動車株式会社 TEL 565051

## 8月号目次 くるま特集号

- |   |          |  |
|---|----------|--|
| SECOND COVER／絵・中西 勝<br>グラビヤ／われら神戸っ子・撮影／西村雅司<br>⑪エミリー・ミウラ ⑫岡橋泰一郎<br>わたしの意見／直木太一郎 9□              | 1□<br>2□ | □35 オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その2)<br>□41 ヨーロッパの旅から／男子専科あれこれ<br>・小林延光  |
| 随筆3題／車・くるま・クルマ・高田二郎 10□<br>パレードひき受けます・山之内豊吉<br>私の若返り法・辻 吉之助<br>隨筆／地方知識人・小松左京 15□                |          | □47 暮しのバラエティ No. '6／車のおしゃれ<br>□51 座談会／自動車よもやま話 大久保怜・新谷秀雄<br>大牧暁子・山口良夫・北村徳太郎  |
| 連載隨想第24回／心そこにあらざれば・白川 渥 17□<br>連載隨想第12回／白砂の記・阪本 勝 19□<br>神戸っ子放談／浅田長平 33□<br>経済ポケットジャーナル 26□     |          | □57 ピンクコーナー(T)<br>□60 神戸からのドライブコース<br>□62 神戸自動車紳士録・自動車こぼれ話<br>□64 神戸遊戯誌／ヨット①・青木重雄  |
| るばるたーじゅ・コウベ①／神戸海運記者・<br>松原新一 29□<br>映画のこと手当り次第⑥／淀川長治 36□<br>こんにちわ船長さん③／アリラン号船長・<br>きく人・玉奥 章 38□ |          | □66 神戸うまいもん巡礼 No. 24／赤尾兜子<br>□68 紳士入門⑩／ゴシップ紳士・竹田洋太郎<br>□70 ポケットジャーナル／花時計／はいからコーナー<br>□72 KOBE SHOPPING GUIDE<br>□78 連載・第16回／神戸夫人・武田繁太郎<br>□82 愛読者サロン・編集後記<br>□84 グラビヤ／駅から10分・撮影 緒方しげを<br>表紙／小磯良平・撮影／米田定蔵・デザイン／橘 正三 |





### MAC MENS. CLUB MEMBER

よりの お声 !!

アイビー的な タイ止・ペンダント  
マックで 創ってはと アンケート  
多数いただき マック企画室では  
頭をヒネッテ !!

アメリカ貨幣で 日本で初めての  
試みをつくってみました  
ご愛用をおねがいします。

マックオリジナル  
コインタイ止 ₩ 300  
コインペンダント ₩ 300

男の服飾

 **マック**

三宮本店 神戸センター街  
TEL ⑨ 0895  
トアロード店 センター街西口  
TEL ⑨ 0896  
新開地店 新開地本通り  
TEL ⑨ 7688  
姫路店 姫路駅デパート  
TEL ⑨ 1261

# Fuchsheim's

### ドイツ菓子

吟味された材料に  
洗練された技術を  
加えて“生”の持味  
を充分に生かした  
お菓子です。

ピラミッド  
ビスケット  
各種ケーキ  
各種詰合せ

# ユーハイム

本 店・三宮生田神社西隣  
三 宮 店・大丸前 市電筋  
神 戸 そ ご う・神 戸 三 越・神 戸 大 丸  
国 際 名 菓・そ の 他 有 名 百 貨 店

\*わたしの意見

## バランスのとれた人間づくりを

直木太一郎（神港倉庫株式会社取締役社長）

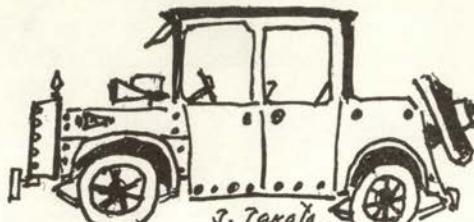


先頃、四国の中治に出かけた。そのときのことである。某所で、N.H.K.主催の全国のど自慢コンクール優勝者の発表会が行なわれた。それを私も拝聴した。激烈な競争を勝ち抜いて、優勝の栄誉をかちとられた人の歌ばかりである。上手なのは当然である。感心しながら聴いていた。

ところがである。優勝者の歌の発表が、すべて終ったあと、ゲストの今井邦恵さんがお得意の歌を披露された。今井さんは、今治の生んだ数少ない音楽家の一人である。今井さんの歌に聴き惚れながら、私は先に歌つたのど自慢優勝者の歌といやおうなしに比較しないわけにはいかなかった。そして、そのおおい隠しようのない“差”に、驚きもし、感心もしたのである。それはたんに、しろうととくろうとの違いというようなことはない。そこには、もう少し根本的な相違がひそんでいるように思われる。いわば、たんなる俗受けを狙つたものと、本格的な芸術との間にある明瞭なへだたりといつてもいいでであろう。このささやかな体験から、私はいろんなことを考えさせられた。大げさにいえば、そこから現代日本における《文化》なり《精神》なりの歪みを引き出すこともできるのである。なるほど、今日の日本には有能なタレントがウジャウジャといいる。のど自慢優勝者もその一人にはちがいない。だが、彼の歌が、私どもの心を、その奥底において感動せしめえないのでなぜだろうか。おそらくそれは、その歌が歌い手の人間としての内面的な豊かさによって、少しも裏づけられていないからである。いくら歌が巧くても、それはただうわべだけのことにはきない。これはあえていえば一種の畸型的人間ではあるまい。

私どもは、自分の内部を豊かに育てあげるという努力を怠つてゐるようと思つてならぬ。脳髄が千からびたおからのように小さく、身体だけがでかい太古の恐龍時代を思わせる現代である。私は、バランスのとれた人格を、現代における理想像としたいと願つてゐる。

### □隨筆三題□



カット・高田二郎

### クルマ・くるま・車

高田二郎

(洋画家・一水会)

私が運転免許をとつたのが昭和二十二年、自分用の車を持ち出してから現在のを含めて十一台目、最近の過去七台連續してヒルマンばかりの愛用者である。

思い出すのは、私が終戦後の一時期勤務していた米国駐留軍交通部の実施した神戸の街における自動車に関する様々な行政的措置である。当時の車といえば進駐軍の

ジープだけがわがもの顔に走りまわっていた。私たちの利用できる車といえば今から思えば、こつけない木炭車という怪物の様な車で、バスもタクシーも皆これである。車の背後に不様なかつこうの風呂オケのような金をつけ木の切れ端をたきエントソから黒煙をふきながらノロノロと走ったものだ。その上、神戸は坂道だらけ、文字通り息も絶えだえに黒煙をふき出しながら坂道をはい上つた。それも稻妻形に少しでも登りの角度を少くしないと登れなかつた。

当時の花形ジープも正式の名称で申せば、 $\frac{1}{4}$ トン軍用トラックで乗車用ではなかつた。だからクッショーンは、現在の軽四輪トラック以下のかたさであった事が思い出されるが、馬力と加速度だけは小型のくせに抜群ものであつた。

現在の交通地獄から見れば、当

時の駐留軍のとつた交通行政面において見ならうべきところがあつた。彼らの第一に行つたことは、道路標識、交通標識の完備とそれに伴なう交通違反者に対するきべきとした処分の実施であつた。

第二に、神戸の東西と南北に走る主要道路に彼ら特有の名称をつけた。東西の横に走る道にはアメリカの各州の名前、南北の道路には番号を。何か事件がおきる、テキ

ジープだけがわがもの顔に走りまわっていた。私たちの利用できる車といふれば今から思えば、こつけない木炭車という怪物の様な車で、バスもタクシーも皆これである。車の背後に不様なかつこうの風呂オケのような金をつけ木の切れ端をたきエントソから黒煙をふき出しながら坂道をはい上つたものだ。その上、神戸は坂道だらけ、

ジープだけがわがもの顔に走りまわっていた。私たちの利用できる車といふれば今から思えば、こつけない木炭車という怪物の様な車で、バスもタクシーも皆これである。車の背後に不様なかつこうの風呂オケのような金をつけ木の切れ端をたきエントソから黒煙をふき出しながら坂道をはい上つたものだ。その上、神戸は坂道だらけ、

ジープだけがわがもの顔に走りまわっていた。私たちの利用できる車といふれば今から思えば、こつけない木炭車という怪物の様な車で、バスもタクシーも皆これである。車の背後に不様なかつこうの風呂オケのような金をつけ木の切れ端をたきエントソから黒煙をふき出しながら坂道をはい上つたものだ。その上、神戸は坂道だらけ、

ジープだけがわがもの顔に走りまわっていた。私たちの利用できる車といふれば今から思えば、こつけない木炭車という怪物の様な車で、バスもタクシーも皆これである。車の背後に不様なかつこうの風呂オケのような金をつけ木の切れ端をたきエントソから黒煙をふき出しながら坂道をはい上つたものだ。その上、神戸は坂道だらけ、

進歩発達をしめしながら、多量生産時代へと移行し、またたく間に現在の交通ラッシュを引き起すにいたつた。テンボの遅い交通行政ではどうにもならない現状、この間、日本の特性を打ち出したのが、ミゼットに軽四輪のたぐいである街を走っている時、全くハエの様にうるさく気を許せないが、やはり日本の道路状況ではどうも便利な実用品の一部と相成った感じ。只許せないのは、おきまりの様に坂道をのぼる時に、小さい団体のくせに工場の煙突なみの煙を排泄する事だ。有色の排氣煙は衛生的にも交通安全性にも、都市美的にも感心したものではないはず。整備不充分といふものだ。

神戸の街は昔からハイカラで、かぬけした街というのが魅力。せめて神戸の街だけでもあかぬけした車の走り方をしたいものだ。

ミナト祭の時であつた。

「そりや、面白かるう」といい  
氣になつて手伝つたのが病みつき  
で、ミス・神戸、ミス・姫路、ミス・  
明石などのバレードがあるとオーナー  
ブンカーラの運転台に乗ることと相  
成つた。爾来、洋服業であるに  
よかわらず「バレード」という  
と「山之上さん！ 賴んまつせ」と  
電話がかかつて来る。

まつた。一枚しかないドレスだから着換えも出来ない。どうにもこうにも人魚を乗せて走っているような具合であった。



みなと祭のパレード

バレード  
ひき受けます

(山之上洋服店) 豊吉

自動車好きな私に、バードのオープニングカー運転をやってみないかと声の掛けたのは、昭和30年のミナト祭の時であった。

り出した。ミス・明石を乗せた私の車は、借りもので長い間使っていないいらしく、屋根が錆びついて全然あがつて来ないのである。大粒の雨は情容赦もなく美人のドレスに降りつける。そこへ若ものが

的にも感心したものではないはず。整備不充分というものだ。神戸の街は昔からハイカラで、かぬけした街というのが魅力。せめて神戸の街だけでもあかぬけした車の走り方をしたいのだ。

三、四人で、エツサエツサと三輪車のオーリングをかついで来て屋根がわりにかけてくれた。やつとることで車を動かしたが、一どしゃぶりの雨はオーリングにたっぷり水溜りを作り、3人のミスの上にたちまちザツーと降りそそいでし

河上丈太郎氏、西尾末広氏、金井知事、原口市長のおえら方から歌舞伎役者など多士済々の顔ぶれをお乗せした。その内にどこで聞こえたかお宮さんから口がかかり、生田、三宮、二宮神社、はては大坂の住吉さん、今宮えびすまで遠征する有難さである。

が大変タドタドしい。やはり上手いのは外人である。ワシントン州知事は手のふり方、笑顔の加減が素晴しかった。シートル航空の社長夫人は「あなたの車はワンダフル！」とほめ、その明るい愛嬌のふりまき方は今でも印象に残っている。

パレード運転もなかなか難しい。時速は常に5キロ。そして乗る人に車がスタートしたか、エンジしたか、ストップしたか判らぬよう振動を与えずスマーズに走らせるのがコツである。今は、短大を出た娘が1台運転しているが、親娘2人で趣味と実益をかけたパレードを慎重に、かつ楽しく運転している。

## 私の若返り法

辻

吉之助

(音楽家)

私が自動車の運転免許を取ったのは、59才の時です。これには、試験官諸氏もびっくりしていたようです。もっとも老人で車を運転している人は、たくさんあります。年はとっても、気は若い。そううねぼれている次第。

実をいうと、自動車にこる前に私は永い間、オートバイに親しんでいました。今から40年ほども昔になりました。知人から、米国製のヘンダーソンという四気筒のオートバイをもらったのが、病みつきのそもそも始まりでした。オートバイで鍛えた運動神経が、車の運転に際しても、大いに役立つてゐるよう思います。

最近、室内も免許をとりましたが、これは私が酔っぱらった時に、身代りに運転してもらうためです。もともと、まだまだ安心して運転をまかせられるというところまではいきません。

三年ほど前のことです。信州まで遠出をしたことがあるのですがそれがヒドイ悪路の連続だったのには、大弱りでした。猛烈な泥道で、そこをトラックが走りわつているのだからタマリマセン。ト

ラックの重みで深くへこまれた道では、いくらもがいても車はカラマリするばかりなのです。さてどうしたものかと思案投首。さわいそこのわざかに坂道になつてないので、ひとまず大きく後退し、そこで大スピードを出してその難所を乗り切つてしまいまし

す。毎日のように車を運転する上で私は、童心に返り、身も心も若返つていいつもりです。毎日のように車を運転することで私は、童心に返り、身も心も若返つていいような気がしていま

す。ともかく車に乗るのが好きでたまらぬ私は、66才の老春を車の中で謳歌している今日この頃です。



KITAMURA PEARLS

世界の人々に  
愛される  
キタムラパール

北村真珠株式会社

神戸／元町2・東京ノスカイビルディング  
TEL 390072 TEL(97) 6032

世界中の人からほめられた  
日本の誇り 神戸のほまれ

マロングラッセは  
ヒロタの銘菓

元町通三丁目 TEL⑬二三四〇番

# 北欧の銘菓

幣社の登録商標



- ピラミッドケーキ
- バウムクウヘン
- クッキー
- ムンデット
- シモン

## ユー・ハイム コンフェクト

本社・工場 神戸市内町1(市立美術館東隣)  
TEL. 22-2336・1164・1165  
三宮店 神戸三宮生田筋(階上喫茶室)  
TEL. 33-7343・0156・4314

フレッシュな  
あなたを創る  
おしゃれメガネ



めがねの専門店

## 神戸眼鏡院

元町3・333112-3391443  
330551(貿易部)

# 地方知識人

小松左京

昨年「放送朝日」という雑誌のルポをたのまれて、九州から瀬戸内へかけて旅行した。かけ足の旅行で、あまり大したこともできなかつたが、それでもできるだけ、その土地の人にあることを心がけた。あつてみて、非常におどろいたのだが、地方のちよつとしたお役所とか、学校とかに、実際に堂々たる知識人がいるのである。——知識人といつても、ジャーナリズムで食べる職業的インテリや、ベレーをかぶつて喫茶店でクラシック音楽をきいているレッテルばかりの文化人ではない。

一見ごく平々凡々の勤め人でいながら、話して見ると、地方政治、経済などについての問題把握の的確さ、「文化」なるものに対する見識の高さなど、時には、こちらがたじたじの思いを味わわされることもあった。

——日向高千穂といえば、庭のサンシユの木で有名な椎葉とともに、山また山の奥の、典型的な秘境と思つていたが、この町の公共建築の近代的でりっぱなのと、町役場であつた初老の人の、町の「政治」についての説明の的確さや、「地方社会主

義」についての一家言には感心した。また、下関市役所では、そこの職員の人たちが出している同人誌の論文の姿勢の正しさにちよつとうたれた。とりわけその中で、大週刊誌の依頼をうけて下関のルポを書いた東京の新進若手評論家の、軽薄で思い上つた書きぶりを、やんわりと、しかしみごとな正攻法でとつちめているのがおもしろく、「一本！」と声をかけたいくらいだった。

広島でも、松山でも、高松でも、こういうしつかりした「知識人」が、思いがけぬ所にいた。——などと書くと、こちらが最初から地方の、とくに西日本の文化程度を、不当に低く評価していたようと思われるかも知れないが、事実はその逆で、私としては、「中央」よりもかえつて地方で、知識人らしい知識人であつてびっくりしているのである。

なによりも感動したのは、そういった地方知識人の思惟のおりめ正しさ、せまいがしつかり身につけている教養と論理、ものごとの判断のたしかさといったものだつた。それは中央でごまんと見

かける知識人の軽薄さとは、まさに對照的なものだ。中央の知性といふものは、このごろますますタレント化して来て、その必然的結果として、もつとも反知性的な事大主義、權威主義のアカにまみれつつあるのに、こちらはいわば埋没精神に徹して、くだらぬものにはあまり目をくれず、「精神」や「知性」の機能について明確な意識をもち、しかしささやかな共同体の中では、しっかりと判断の軸の役わりを果しているのだ。——實際のところ、ちやちな総合雑誌などを毎月よむよりは、こういった人たちと話している方が、はるかに知性の訓練にもなり、刺戟になる。特に知識人の中でも、老人がいい。

これは考えてみればあたり前の話かも知れないがんらい思惟とは孤独な作業であり、知性や精神は長い閑暇による蓄積と、醇化、醸酵によって、はじめてそれらしい形をとるものだ。——などと大げさにいわなくて、知性というやつは、あまり俗事や流行にぶりまわされず、ポカンとして天井をながめたり、じっくり本を読んで、ゆうゆうと反芻するひまがなければ、一向に「高度化」しない。あまり知性的になろうとガツついたり、他人の知性と鼻一つの差でぬきつけられると血の道をあげたりしてはすりへつてしまふばかりだ。要するに、人間、知性的になるには、教養・ラス精神的ひまが必要なのであり、この精神的ひまというやつが、中央にはまるつきりないのである。いくら中央にいても、知識人ぐらゐは俗事やジャーナリズムから超然としていたらよさそ

たら知識人、文化人、ジャーナリストが多いところで、そのつきあいやら何やらのうるさいことお話しにならない。現在の中央といふ所は、知識人のありかたが環境に決定されている所であり、ジャーナリズムとの関係において、「知識人」のレッテルのためにたえざる緊張をしいられている所だ。——だから私は、どうもこれから日本において江戸時代後期から維新前夜にかけてのよう、文化の比重が中央より地方に徐々にうつって行くような事態がおこりそうな気がする。その知的ボテンシャルは、どう見ても、関東より西日本の方が高いのである。ただ、ここで考えなければならないのは、そういう「地方知識人」のいろんなエネルギーを、その地方において充分に生かして行くべき、その地方ジャーナリズムと、それと密接な関係をもつ地方政府が、現在存在していないのではないかということだ。——現在中央は、政治面でも文化面でも、そういふた地方的エネルギーをたくみに吸いとることによつて巨大化し、生きのびている。だが、最近の中央の頽廃ぶりを見ていると、どうもこのままほつたらかしておいたら、日本文化自体が、ひどく荒れはててしまいそうな気がしてならない。——一つ、地方ジャーナリズムなり、地方政治なりが、いつまでも中央によつかりつたり、地方性でもつてみずから規制したりせず、この地方こそが、これから「日本文化」の中心になるのだ、ぐらいの意氣込みで、地方知識人のエネルギーを、フルに生かすこころみをやつてみると面白いのだが。

(作家)